

図書館で偶然の出会いを

安藤至大 教授
(労働経済論)

学生の皆さんはどのようなときに図書館に行くのだろうか。例えば、興味のある本や必要な本を借りに行くときかもしれない。また、講義やゼミで求められた報告の準備をするときもあるだろう。そして、空いた時間に雑誌を読みに行くなど、暇つぶしとして利用することも考えられる。これに対して、図書館をほとんど使っていないという人もいるかもしれない。

今の時代、スマートフォンやパソコンを用いてインターネットを検索すれば、私たちは大量の情報に簡単にアクセスすることができる。しかしそれだけでは十分ではない。図書館を使うことにはネットではできない様々なメリットが存在するからだ。以下では具体的に見ていきたい。

まず紙の書籍を読むことのメリットとは、第一に品質保証があることだ。書籍には、その本が作成される過程において多くの専門家が関与することになる。最も重要なのは著者と担当する編集者であるが、出版社の会議をクリアしなければ出版できないし、場合によっては他の専門家による事前チェックを受けている。よって定評のある出版社が出している本は、もちろんある程度の当たり外れはあるが、基本的には信頼できる内容のものだ。

もちろんインターネット上にも、信頼できる執筆者が書いた有用な情報は多い。しかし信頼できない情報もまた膨大であり、どの記事が信頼できるのかを判断することに手間がかかることもあるだろう。また、紙の本とは異なり、後になって内容が書き換えられてしまう可能性があるし記事そのものが消されてしまうこともある。

さて、これだけが理由ならば「紙の本が大事だ」ということであり、図書館を利用する根拠とはならない。それでは街の書店やamazonなどのネット通販サイトを通じて本を購入することと比較したときの図書館のメリットとは何か。それは無料で借りられることだけではない。私が重視しているのは、並んでいる書籍が網羅的であり多様性があること、そして偶然の出会いが生まれることだ。

近頃は書店の経営を維持するのが難しい時代であり、並べられている本は、最近出版されたばかりのものやベストセラーなどに偏っていることが多い。よって少し古い本や珍しい本、また専門的な本は棚にないために注文しなければ手に入らない。これに対して大学の図書館などでは過去からの蓄積で多くの書籍にすぐにアクセスできる。

もちろんamazonなどネット書店では、非常に多くの書籍を取り扱っている。しかし必要な本を検索することはできても、偶然の出会いはまだまだ少ない。

図書館で本を探すことを想像してみよう。テーマ別に分かれた開架エリアでお目当ての本を手取るためには館内を移動する必要があり、それだけで非常に多くの本が自然と目に入ってしまう。またお目当ての本の周辺に並ぶ本も視界に入る。そして書名や背表紙のデザイン

ンなどが気になったなどという理由で、思いがけず面白い著者や本と出会うことができる。図書館を最大限に活用するためには、こうした偶然の出会いを活かすことが求められる。

セレンディピティという概念がある。これは偶然の出会いや発見を意味するものであるが、科学上の大発見がしばしば偶然によるものだという逸話に関連して使われることが多い。ただしこのような偶然の出会いや発見は努力せずに運だけで得られるものではない。実際に、フランスの細菌学者であるパスツールは「偶然は構えのある心にしか恵まれない」という名言を残している。

せっかく視界に入った本があっても、その重要性に気づかなければ意味がない。そのためには、大学で学ぶ内容だけでなく新聞や雑誌で目にした記事、また日常生活で感じる素朴な疑問などを流してしまわずに、頭の片隅にとどめておくことが必要だ。それが小さなフックとなって目に止まった本を手にとることに繋がり、結果として知識の幅と深さが増していくことになるだろう。

これからはAIの発達などにより、人間にしか出来ないことが重要になっていく。大学において知的な基礎体力を身につけることの重要性は日増しに高まっている。そのためにも学生の皆さんには図書館を活用し、偶然の出会いを楽しんで頂きたい。